さくら新聞

～笑顔ｄｅ共育て～

平成30年10月1日発行
石神井町さくら保育園
〒177-0041
練馬区石神井町7－25－45
TEL　3997-0070
FAX　3997-0972

主題
思い切り身体を動かそう
今月の保育のねらい
戸外活動を十分に楽しみ、落ち着いて
じっくりあそぶ　　集団あそびを楽しむ

こんにちは！今年の秋

連日のように報道されていた夏の異常気象、くわえて台風や地震といったわたくしたちにはどうすることもできない自然の事象にあれこれ思いを巡らす日々でした。

神無月！ようやく秋を迎えられそうです。空の高さ。そして空の青さ。天に向かって指先まで手を伸ばしたくなる青い青い空。

30年度も半年が経過し、今月は後期の入り口です。子どもたちは散歩先や園庭で、一人ひとりがどのように体を使って遊んでいるか？、また、どこでどのように援助の手を出したらよいのか？等々をチューン・イン（※）しながら保育をしていきたいと思います。

（※チューン・インについては、同ページの説明を参照して下さい）

感謝申し上げます

◆福祉サービス第三者評価の利用者調査へのご協力をありがとうございました。86.5%と大変高い回収率でした。集計の結果を玄関のカウンターに提示いたします。ぜひご覧ください。

◆運動会では多くの拍手やご声援、また、アンケートにもご協力いただきありがとうございました。後日、アンケートのご報告をさせていただきます。

『３０００万語の格差』赤ちゃんの脳をつくる、親と保育者の話しかけ

「子どもに対し言葉がけの多い家庭とそうでない家庭では3歳までに子どもが受ける言葉の数に３０００万語の差が生じる。そして、それが《子どもの将来の学びの到達点》に影響を及ぼす」という研究データーを中心にした子どもへの関わり方を紹介した翻訳本が、今年5月に刊行されました。

本書のサブタイトルが「赤ちゃんの脳をつくる、親と保育者の話しかけ」になっているとおり、サスキンド博士（シカゴ大学小児外科教授）は、「**子どもに何かをしてあげようという親より、子どもがしていることに関心を持つ親のほうが子どもの脳を育てる**」と言い、その具体例を、いろいろな研究を引用しながら紹介しています。

この本は保護者や保育者にとってそれぞれの学びがありますが、**保育者が本書から一番学べるのは『チューン・イン』です。チューン・インは、観察―解釈―行動のことです。**まず、子どもの欲求や興味をよく観察して、「こういうことかな？」と解釈して対応する行動が大切なのです。

あくまでチューン・インは「そのとき」に、子どもの関心に対応することだと理解できます。「そのとき」に子どもの興味や気持ちに合致して行動をすることが求められていることが本書から伝わってきます。

ページ数が多いのですが、5章だけでも読んでいただければと思って紹介します。【絵本の部屋に置いています】

10月　行事予定

日	曜日	内　容
2	火	身体計測（乳児）
4	木	身体計測（幼児）
9	火	おはなし会（幼児）
10	水	避難訓練
11	木	秋の健康診断（全園児）
12 13	金 土	思い出遠足＆ お泊り保育（5歳児）
17	水	さくらアートくらぶ4歳児
18	木	ふれあい環境学習
19	金	さくらアートくらぶ5歳児
25	木	いもほり（幼児）

4・11・18・25日⇒絵本の貸し出し日
3・10・24日⇒さくらんぼくらぶ
10日⇒『ふれあいランチ』提供日
3・24日⇒家庭的保育者受託児
ふれあいランチ
2・9日⇒『まちたんけん』
光和小学校2年生来園